

伊藤慶夫先生を偲んで

新潟大学名誉教授（旧第二内科） 荒川正昭



伊藤慶夫先生 近影

日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会名誉会員・中新潟クリニック理事長／院長 伊藤慶夫先生は、平成28年5月12日、御逝去なされました。数年前から、時折体調を崩されることがあり、同窓会や研究会でお目にかかることが少なかったのですが、御息一寿先生とともに御仕事を続けておられました。御息のお話によりますと、ここ1年間は時々肺炎に罹患され、体力が徐々に低下して、去る皐月ゴールデンウィーク後、彼岸に旅立たれました。行年83歳の御生涯でした。

伊藤先生は、昭和9年4月26日、新潟県岩船郡関川村で誕生され、34年3月、新潟大学医学部を御卒業、聖路加国際病院で1年間の医学実地修練の後、35年4月、母校第二内科学教室（主任・桂重鴻教授）に入局なされました。同年、桂先生定年御退官の後を受けて、助教授木下康民先生が第4代教授に昇任されました。伊藤先生は、助教授萩間勇先生がチーフである呼吸器班で診療・研究に精進されました。41年1月から42年11月まで新潟市内の国立内野療養所に出張、44年10月に助手に任官、51年に講師に昇任されました。57年3月からは新潟県済生会三条病院に勤務、平成3年より新潟市内で開業（中新潟クリニック）、地域の第一線で活躍されてこられました。

先生とサルコイドーシスの出会いは、昭和37年、第二内科に第一例の患者さんが入院された時であります。その後、症例の数が増えてきましたが、先生は病像の多彩さに目を奪われ（御本人の言）、研究の中核となって病態の解

析、さらに病因の解明に情熱を注がれたのであります。35年にサルコイドーシス臨時疫学研究班が発足、その後、日本サルコイドーシス研究協議会に発展、我が国の研究が急速に進展してきたのは衆知のことですが、先生は初期の頃から参加されて、精力的に活躍されました。多くの症例、動物実験を通して、プロピオニバクテリウム、エルシニア菌、クベイム反応と肉芽腫形成の関連を研究し、報告されました。昭和56年、第1回サルコイドーシス研究会が札幌で開催されましたが、58年、先生は第3回研究会を主催され、成功裡に終わったのであります。

今でも私の心に残っていることは、昭和48年から経気管支肺生検と同時に、縦隔リンパ節生検を全例に行い、頂いた貴重な組織で診断を確定し、研究を進められたことでした。当時と現在の世相の違いはありますが、診断確定に極めて有用な縦隔リンパ節生検の実施に当たって、全ての患者さんに説明され、承諾を得られたことは、驚嘆すべきことであり、先生の誠実な御人柄、医療への熱い思いが患者さんの共感を呼び起こしたものと感じています。

先生の御業績に対して、日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会から名誉会員に推挙されました。先生は、学術分野の功績だけでなく、一般市民の健康増進のための啓発書、「百歳に挑戦」、「身近な健康」、「あなたが主治医：ビジネスマンの健康管理術」などを出版され、広く県民に知られていました。昨年2月、第二内科は二つの専門内科、腎・膠原病内科と呼吸器・感染症内科に分かれました。い

〔追悼文〕

ずれの専門医であっても、人間を診る内科医であるべきという第二内科の伝統を自らの人生で実践された先生には、まだまだ大所高所より御指導を賜りたいと願っておりましたが、御逝去は痛恨の極みであります。若い学究には、伊藤先生の医学医療に対する熱い思いと不断の努力を改

めて思い起こして欲しいと願っています。

先生の御冥福を心から御祈り申し上げます。安らかに御休み下さい。

(平成28年9月)